京城新報

人の一生は重き荷を負ふて遠き道を行くが如し急ぐ可からず

發行所 京城新報社
仁川支局
東京支局

雑報

●七月中 京城商品商況

▲玄白米　は新税關實施の餘波を受けたると内地米價の騰貴等に伴れ古今未曾有の新高値を唱ひたり赤銀兩十餘日に亘りたる爲め買出しに頗る困難したり相場は前月に比し白上米石に付一圓七十錢方並同一圓七十錢方餅白一等米二圓二十七錢方玄上米二圓七錢方同中一圓九十三錢方各の突飛なる暴騰を告げたり、益々買惜の氣勢なれば尚一層の昂騰は免れざるべし

▲大麥小麥　は農繁期、各地水害等の爲め出廻り杜絶の姿なりしを以て米價に引立られ益々强硬なり相場は前月に比し石に付各の七錢方の騰貴を示せり

▲小豆大豆　は前月に於て米價に伴れ非常の高値を示したる爲め見越買入多かりし爲め忽ち行詰みとなり相場は賣上の痛に逆せるを以て本月に入りヒタ〱と下向を來し月末に到り前月より大豆石に付二十七錢方小豆五十錢方の下落を告げたり

▲和洋金巾　は時候柄振はざるも昨年の同期に比すれば約二割方の増加を見たり相場は前月に比し原價騰貴と品薄等により洋金巾上反に付七錢、並十七錢騰貴す和金巾は保合なり

▲味噌醬油　は夙々賣行あるも彼活と云ふに到らず相場は原料騰貴の爲め食料品組合に於て値上げの談合ありたるも今暫くは現状維持の姿なり孰れ來月に入らば多少の騰貴を見るならん

▲ビール　は霖雨十餘日に亘りたる爲め一時賣り足し鈍りたるも霽天忽ち各品共賣行盛況となれり殊に本月は中元宴會贈答の爲め前月に比し約三割方の賣行増加を見たり相場は保合

▲洋酒類　は前月に比し約三割五分方の賣行増加を見たりシャンペンは原産地に於て南北酒造組合の爭鬪あり酒造場破壞し今暫くは復舊むつかしき爲め一割五分乃至二割の値上を計りたり葡萄酒原料不作の爲め下等品は多少の昇騰を示せるも上等品は餘り影響を受けざるもの〻如し

▲砂糖　は會社側の强硬なるに拘らず市場之に伴はざる爲め當く沈靜なりしも梅雨霽れて實行旺盛となり急激なる發展を示し引續き賣止したる會社は益々强硬を唱へ殊に瓜哇糖高値の入電あり一方市場は雨を恐れて買控へ出來得る限り手控せし爲め各地方共一時に買氣進みつゝあれば原産地の唱へ値に引付られ今後倍々活躍を見るべし相場は前月に比し百擔に付十錢乃至十三錢昂騰し中白は着荷潤澤と賣り進みの氣配あるが約十六錢七厘の下落を示せり

▲麥粉　は前月來引續き賣行良好、小麥豊作と見て安値を夢想せる四國の事情は最早此上に下落を許さず先以て受註入見て差支なからん相場は前月に比し並粉袋に付五錢方下落す（未完）

雑録

●銃猟に就て（二）

芳洲投

趣番なれば十文字價介君著銃獵新書、米人トウマスアレキサンダー氏原著渡邊義方君翻譯及び銃獵獨案内等を良とす、ところで先進者が後進者に銃獵を勸誘するに唯に口を健康に頼り一毀損觀測して以て操銃を許すに足れりとするものあり是れは輕卒に失するものではあるまいか、凡ろ何事にも順序方法があるケースに裝藥のことより銃に裝彈すること經て操銃法に至るまで皆夫ら自ら順序方法あり若し失れ一歩を誤れば取戻しの付かぬ失態を演ずることがある、斯る場合に至りたるときは其人は勿論なるも始め操銃を許したる先進者も亦間接に德義上の罪は免るゝことは出來まいと思ふ注意の上にも注意周到が肝要である斯く書き立れば銃獵は容易の技にあらざるよふにあるけれども其操銃順序正しく法に叶ひなから敢て難儀い技ではないので誰れでも爲し能ふものである西洋では婦人子供も平氣で弄んで居る要は唯是れ操銃の巧拙に在るのみである序に獵士間の格言及び失態の四五を列記して聊か後進諸士の參考に供すであろふ

一、銃機は鋭利なるものなる程裏面には危險の伏在するものなることを忘る可らず

一、鷄頭はいつも卸し置を本位とし（無鷄頭は安全になし置く）寄り擊のときは目的物に近接し發射の姿勢に及んで始めて鷄頭を上げる事

一、本銃と雖も人に向く可らず

一、目的物に近接したるときの外銃機は水平に携帶す可らず

一、銃機を肩にするときは先臺を上向けにし銃身の方を肩に接觸せしめ擬を持ち臂を脇間に附着すること斯くせば銃口は自然斜めに上向きになり居るべし

一、二人連れにて山野を上下、往復するとき（一列になりたるときを云ふ）後者は前項の通り前者は先臺を下方に銃口を足元先き三四尺前の方に向け機械部を脇間に挾むべし

一、後裝銃に裝彈するときは必ず銃口を下向になし銃臺を持ち上ぐべし無鷄頭にありては特に然りとす

一、鷄頭を上下するには必ず銃口を天上に向け置くべし

一、人力車又は舟に乘り移るときは裝彈を拔き去るべし先込銃は打出し空銃と爲し置くべし

一、水平射擊の場合には其目的物の實物を確めさる限りは決して草木の動搖を見て發射すべからず

一、獵者は獵場に至りては始終矢先の危險の有無に注意することを肝膽に銘して忘るべからず

外事一束

▲葡國　王黨三隻の汽船に軍需品を滿載し現共和政府轉覆の企を計り内二隻英國にて差押へられたり仕向地を指示す可き證據なし多く論評に値せず

▲倫敦　タイムス日本政變を論じ曰く桂内閣の辭職避け難き所其顯著なる成功を收めたる後故幾分不安心を免れず後繼内閣は經驗に缺乏す宜しく財政改革に全力を竭し總選擧に成功せよとタイムスの婉曲なる言辭は其世界的位置上已むを得ず作然西侯に財政改革を勸告したるは不言の好諷示

▲五萬餘斤の支那着色茶米國にて三週間に亘る檢査の結果全部輸入を禁止せり

▲對支那に停滯せるもの三千萬斤全然輸出不可能たり日本茶を以て此缺を補はんと輸出商焦慮すと日本茶界次第價を損す此際信用を恢復せよ

▲タフト　西部各州を巡回す次期議會に於ける仲裁條約其他の辯論喚起の爲

▲と報　ずも寧ろ明年大統領選擧準備とす方事實の如し　ルーズベルト態度如何

▲巴奈　馬口鐵十六吋巨砲据付二千斂百斤の彈丸にて軍艦一隻に擊沈の計畫

▲東三　省防穀命の結果高粱小麥粟等の雜穀輸出十五六萬噸輸出止まり南滿

▲山東　邊の需要地恐慌す防穀令の弊經濟なり既に定論たり東三の芝罘防穀

文苑

●慶會樓

祿々庵

夕暮の、慶會樓に來て見やしやんせ
去つた月日に殘つた
丹と青とのほすより泣きを
高麗鳥は昔ながらを歌つて
ペンペン草は囃子ます
慶會樓のゆふぐれに
蜘蛛が疲れて身をかくす
かくす柱の御影石は
牛殘つたる池水に
影をうつすじやないかいな

慶會樓は景福宮中に有る壯大なる建築物に候て直徑三尺高さ十五尺の花崗石の柱四十八本にて青丹美々しき大厦をささへ、四方を蓮、河骨、菱などの葉の浮く溝渠にかこまれて立ち居り候



召使れ初

黒法師

第百三十六回

助藏の云ふ處に出れば、彼は如何にもして出世の緒口を得たく、正木佐十郎に語はれて、恐しき談合に與したるなりき、佐十郎の云ふ、此の度首尾好く成るに於ては、奥方御寵愛を恃みに我儘氣隨の振舞ある國尾一派を濱田殿お奥より放逐するを得べし、國尾一派御殿を去らば、後には清き風吹きて、澤野殿お心のまに〱、萬事御取計ひある筈なりさすればお察の罪科も赦さるべく、赦されて重きお役儀も蒙るべし、助藏殿御身上に至りては、我等一身に引き受けて、お上表推擧の勞を取るべく、澤野殿も打捨て置かるべき筈なければ、歴々御身分にお取り立てあるべし、御親父は毛利殿御内、内職せではその日の生活も立ち難ぬる小身にて在せど、貴殿は一足飛びに上士の數にも入らせ、少くも二百石の御知行、出世は目の前ならんと、木に餅の生る話なりき

我身も什麼とかして一人前の武士となりたく、妹お察すら女の身に出世の緒口を尋ねて、單身親の許を去りたるに、兄と生れたる我身、男兒と生れたる我身、萬一お察に先を越さるゝことあらば、生きて世間に面は出されじ、さりとて是と覺えの技倆も無く、何れに推擧を賴むべき手蔓無き身は、悶々の中に老ひ行きて、一代を小人頭、一

「今思へば香しい餌に釣られて、肉身の血を啜はうとしたでござります、此處に恐しい事、皆樣へ合す顔ござりませぬ」と助藏は打ち悄れて「只今申し上げる次第、皆樣御立腹もあらせられうと心得、如何やうとも御制敗なされませ、私思ひ違ひから、一人の妹を暗黒へ陥れては、人と生れた甲斐もござりませぬ」

助入は我子が口籠りながら物語る一伍一什を、沈として聞き居たるが、此時徐に顔を擡げて

「そなた佐十郎どのへ、什麼樣の約束をした」と改めて問ひ掛けぬ

「此事首尾よく成るに於ては、當座褒美として銀子五十兩、半年の中に御知行二百石のお側役人に召抱への約束

代を内職の苦勞の間に過ぎ去るべきかと、無念の齒を嚙み居れる折柄、圖らずも佐十郎の口より二とあるまじき好き口上を聞きたるなれば、只上の天をのみ覗詰めて、歩許に氣も付かず、巧なる口車に乘せられて、夢の如く濱田殿お局敷へ推參、お察に逢ひて、父上大病と詐りたるは私一期の不調法、什麼ぞ辭解く口上を持ちませぬ、と兩眼に涙さへ湛へて云ふ

「それで樣子分りました、何事も皆澤野樣お計ひ、お察どのを深い淵へ導いたお使番お君どのは、相生殿お引き立ての女中、雲は晴れてござります、雲は晴れて清しい月の光り見るでござります」と君江は飛び立つ樣に云ひう

してござります」

「佐十郎殿、その爲これへ入來ぞ見られた」

「まこと御意、お察罪科定まる上は、おれに繋るお道どの國尾どの、皆なお咎めも受けまする氣、すれば澤野どの御身上、大磐石と爲る筈でござります」

「肉身の肉を賣る者、そなたばかりでも無く、正木殿御同胞にも見る樣ぢや」

「立身出世の前には、親も無く兄弟も無いとある、これが佐十郎殿御持論でござります」

「正しう獸ぢや」と助入は唾を吐く樣に、「左樣な事見習ふては爲らぬ、小身には生れても、武士の背は金鐵、知行よりは名、名より實、この心得肝要ぢや、以後をきつと愼まう」

京城新報

寺内伯の留任

吾人主張の貫徹

吾人は本年六月四日發行の本紙上に「朝鮮總督辭任說」と題し[illegible]

[illegible]す。此際に於て寺内[illegible]て力を半島に傾注す[illegible]伯の留任は適當の[illegible]間にして其任期短[illegible]朝鮮總督の顧問寺[illegible]にあらず、擇揮すれ[illegible]明的政治家として手[illegible]べきも、現官制の如[illegible]大將たることを要[illegible]り寺內大將の外に適[illegible]の時日を要することを[illegible]人は此際伯の留任を[illegible]では、立憲的理想に[illegible]內閣の政綱に背馳す[illegible]み、引續き忍耐以て[illegible]膺らむことを切望す

東京電報

露帝の御親電

天皇陛下には[illegible]帝陛下に左の電報を[illegible]

[illegible]間に於て幾多未決[illegible]議に依つて今や全[illegible]るを喜び陛下に向つ[illegible]の友情を表せん爲[illegible]るに輪船アンガラ[illegible]附す可きを以て玆[illegible]するは朕の殊に欣快[illegible]は一切爭議の終局の[illegible]を益々鞏固ならしむる[illegible]又惟ふに陛下の御高[illegible]存ずる事を疑はざる

桂公の光榮

天皇陛下には[illegible]なる御沙汰を下し賜[illegible]大臣公爵桂太郎を待[illegible]を以てし元勳優遇[illegible]

米穀取引解停

農商務[illegible]米穀取引所の八月限[illegible]除せり

書記官長任命

三十日[illegible]たり

叙高等官二等　南　弘

姉川艦引渡

[illegible]露帝に發[illegible]電の御趣旨に基き元[illegible]ガラ」は吳より浦汐に[illegible]吳鎮守府より委員長[illegible]官以下士官下士卒を乘[illegible]任に膺らしめ第二艦[illegible]之を護衛し浦汐に[illegible]發期は未定なり多分[illegible]り

露帝の御答電

露國皇[illegible]皇陛下の御親電に對[illegible]政府間の幾多懸案が[illegible]て幸に安定を見るに[illegible]陛下は朕に送るに[illegible]てせられ朕は誠に感[illegible]爭議の終局の解決[illegible]陛下と所懷を[illegible]全く[illegible]共にするものにして陛下が輪船アンガラを朕の政府に交附す可きを命せられたるは彼我の親交を更に明確に表證し且つ之に至大の保證を與ふる所以なり

取引解停理由

農商務省にては米價の調節を計り需給の均衡を保たしむる爲め過般東京、大阪、名古屋、桑名、神戸、金澤、高岡の七米穀取引所に對し八、九兩月限賣買停止を命じたるが爾來東京を除くの外大阪其他の六取引所に於ては賣買方協議の上總解合を決行するに至り特に八月限は餘日なきを以て此際賣買停止を解除するも不穩の事なく市場に波瀾を惹起せしむる恐なきを以て解停したる次第なり

臺灣の暴風雨

臺灣に暴風雨あり倒壞家屋七千餘戸死傷百餘名其他の被害目下調査中

東郷大將の出發

東郷大將は廿九日シャートル出發の報知あり

▲乃木大將參內遠慮　乃木陸軍大將は歸京したるも惡疫流行地を經過したるにより宮內省傳染病豫防規則により十日間參內を遠慮する事になれり

▲米大使歸國　本邦駐劄前米國大使オブライエン氏は愈々三十日午前十時四十五分新橋發汽車にて橫濱に赴き同地解纜の汽船に搭乘して歸國したり

▲新勅選議員の所屬　先般勅選せられたる貴族院議員中、押川、若槻、有松、龜井の四氏は茶話會に仲小路、深野、阪本、德富の四氏は研究會に木內、和田の兩氏は無所屬に入るに至るべし

▲乃木大將の光榮　乃木陸軍大將歸朝に就き　聖上皇后兩陛下には御慰問の思召を以て左の御下賜品あり
一五種交魚一臺　淸酒一樽

▲柴田翰長辭任　柴田內閣書記官長は三十日付を以て依願本官を免ぜられたり

▲地下線に變更す　遞信省にては四十五年以降五十年に至る繼續事業として第三期電話擴張方針を決定し市街地全部は地下線を採る筈なり

雜報

●總督留任公電

三十日午後十時四十分發寺內伯より山縣政務總監に宛て左の電報ありたり
本官本日依願本官を免ぜられ專ら朝鮮總督に任せらるゝ御沙汰ありたり

●總督に御沙汰

天皇陛下には三十日寺內總督に左の御沙汰を賜はりたり
日韓併合以來日淺く卿を要すること尙多し卿夫れ專ら總督の任に膺り之が經營を全ふせよ

●森林令實施

既に發布されし朝鮮森林令は愈々九月一日より實施に付三十一日府告示第二百七十二號を以て森林令施行規則に依る出願の諸樣式發布されたり

●森林令ご訓令

森林令實施に關し一兩日中各道長官に訓令する筈也

●軍司令官着期

上田朝鮮駐劄軍司令官は三十一日午後三時四十分新橋發赴任の途に就き當地には豫定の如く四日午前八時四十分着の旨其筋に通報ありたり

●徵稅は好成績

度支部調査に係る昨四十三年十月より本年六月末日に至る各道徵稅成績を聞くに豫算調定額七百三十四萬九千四百六十四圓にして之れに對する收入總額六百九十八万六千五百七十六圓收入缺損額八萬三千七百十圓差引未收入二十七万九千百七十八圓即ち豫算に對する收入十一割五步強超過額九十一萬七千五百七十六圓の好成績を示せりと

各銀行家の藏相觀

今回の政權變換に付て記者が當地各銀行家に就て聞く藏相觀を列擧すれば左の如し

▲木村鮮銀理事曰く　山本達雄サンが大藏大臣になるらしと云ふ事は一寸意外でしたが併し實業界の有力者から人物を採ると云ふ事は政界筋から早く通知を受けて居たのです、山本サンの藏相は甘く行きますかな、あの人は有力な銀行業者間では餘り歡迎しない樣です中には嫉視もあるでせうが又勸銀の活動を根に持つて居るのもあらうと思ふ隨分敵も多い上に內閣の內でも餘り巾がきかない方ではなからうかと心配して居るのです、併し勸銀總裁としては却々行つた方ですから案外仕事をするかも知れません、第一私の希望するのは是非此地に勸業銀行を建てゝ貰ひたいのです、東洋拓殖などではドウも不充分で思はしくない

▲竹山一銀支店長曰く　サア、伴食でせうな、ドウも藏相が有力な人でないと始終動搖の氣味がある、私の方から云へばドシゝゝ朝鮮に金を出して貰へれば至極結構ナ譯だが、內地の方はそれ丈け迷惑だらうと思ふ此頃は各種の負擔の爲に退步して居やせんかと思ふね、現に角桂さんの後だから四邊の氣受けは餘程如才なくやらんと評判をわるくする掛念があるね、大した仕事は出來ぬでせうな

▲佐野百三十支店長曰く　山本サンは一度一寸出逢つたですが非常に冷靜な頭の人ですから滅多に動さるゝ事はなからうと思ふ、うれに今では大分重みが出たろうから適任だと思ふね、勸銀總裁の時に農工銀行に普通銀行の業務を行らしたので銀行家連には餘り評判はよくない樣だがソレだけ私は大に賛成するのです、併し財政方針の急激な變化は困りますね、公債政策が不明な爲公債の下落は已むを得ないでせうが財政々策は徐々に變へて貰いたいですナ

●木材需要概況

朝鮮に於ける木材の需要額は內地人の移住增加と鮮人の家屋構造改築のため益々增加し一昨四十二年度は日本より輸入したるもの木材及板薪材木炭竹材枕木を合して百四十三萬四千八百六十六圓なるが四十三年度には百八十三万八千七百八十三圓に增加し今後益々其需要額增大なるも翻て營林廠の產額又年々擴張し四十三年度には木材及板薪材木炭として淸國に輸出せしもの合計二十一万九千六百九十圓に達し尙新義州に於て四十三年度中に賣却したるもの百四十万二百十五圓なるが右は主として朝鮮內地の需要に充てたるものなれば新材木炭及枕木等の內地輸入を除けば建築材料として營林廠材は殆んど內地移入と相匹敵し將來益々內地材を驅逐せんとする傾機ありと云を得べし

●群山通信　愛水生

◎懸案中であつた海陸連絡問題も一部分丈は既に解決し先つ不取敢二萬六千圓の豫算を以て巾五間長四十間の棧橋を本年度中に建設することに決定し過般宮木仁川稅關長は當港へ出張して親しく實地を踏査し其位地の如きも略指定濟となりしとか未だ何等の公表なきも現に角三南線中太田群山間鐵道の開通も僅に四五月後に迫り居る際とて目前海陸連絡問題第一回の解決を見るに至りたるは實に吾人の愉快に堪へざる所である併し所謂其海陸連絡問題なるものは築港完成の曉に至らされは完全に解決出來さるを以て當港の人士たるものは須臾も之に對する研究を怠てはならぬ

◎當港は朝鮮唯一の米穀輸出港にして毎年米のみにても海外に輸出せらるゝもの二百萬圓以上に達し其取引は實に盛なるものである然るに悲い哉當港には未だ米價の標準を定むる機關がない則ち米穀取引所がない隨て米價區々として一定せず取引上常に不便を感しつゝありとのことは吾人の屢々耳にしたる所である處が今米穀取引所設置の議有力者間に提唱せられ議一決して終に其筋へ設立の請願書を提出するに至たのは時勢の然らしむる所とは云へ確に米穀取引上より見て一大進步である吾人は双手を擧て之に贊成の意を表するものである併し同時に又一二苦言を呈して當業者將來の銘に供したい因に當港には本年に入り米穀商間に米の賣買組合なるもの組織せられ一日米穀取引所の如き觀ありしも固より個人組合の集合團に屬し其の範圍極めて狹少にして廣く賣買仲介に應ずるの機能なかりしを以て今回終に米穀取引所設立を計畫せらるゝに至りし次第である（未完）

●大久保大將の留別宴

大久保大將は三十一日午後六時より龍山官邸に總督府各課長以上の高等官陸軍側士官以上の各將校京城銀行會社重役新聞通信員京城永原仁川の民間重なるもの四百餘名を招待し休憩中新官邸を縱覽し六時半より餘興開始七時より模擬店を七時半より食堂開始大久保大將の挨拶山縣政務總監の官民總代の答辭ある筈なれば定めて盛會なるべし

●教育成績　京城府所

京城府內の公立普通學校は九校私立學校は九十六校にして右は既報の如く昨今巡回教師二名をして教授の方法及び生徒の監督等に就き教諭せしめつゝあり成績頗る良好なるが右は規模の小なる書房の如きは將來合併して比較的完全なる私立學校を設くるにいたるやも知れずといふ

●水道保護工事　京城

京城水道保護工事は過般來より浸水區域の水道鐵管保護工事に從事しつゝありしが其後數次降雨ありし爲め工事進捗せざりしも昨今の快晴にては二三日中には全部終了すべしと

●道路擴張と土地買收

既報の如く京城府大門道路擴張工事は本年中に竣工の豫定にて過日より家屋取毀に着手し居るが未だ一二の地主にして買收に應ぜざるものあり之等は愈々土地收用令を適用することに決定したるが尙右道路は全部二十間道路となすやも知れずさすれば北側に於て五間の擴張をなすべしとの事なり又貞洞町より光照門にいたる道路の擴張工事は來年の春頃竣工の豫定にて右は永樂町派出所より光照門にいたる迄の土地は昨今殆んど買收したりといふ

●授產場養蠶事業

京城府授產場に於ける養蠶事業は春夏秋の三蠶とも成績極めて好く秋蠶は既に本月中旬全部繭に化したるが右三季に於ける繭の石數は約二十五石なりといふ尙右養蠶所の講習生は五十名にて一ヶ月一圓八十錢の賄を供し修業後は自宅に於て養蠶業を營むか又は教師となるか各自の好む所に從ふべけんも現に角鮮人婦人の職業としては恰當なるものなるに依り志願者却々に多く而して修業者には府廳にて繭を買ひ上げ一人に付十圓つゝの分配を與ふべしといふ因に來年よりは機業を開始するやも知れずとの事なり

●京城搾乳改良　京城

京城搾乳家が契約を結んで藤富國商店の一手販賣となせしより從來の乳質に比し甚だ惡質となりたる事は世人の等しく認むる處なるが、こは全く一手販賣の必要なくなりし爲め自然利己主義となり從來五人の厩夫を三人に減し乳牛への食料も粗惡となり只々藤富國商店へ多量の牛乳を納むる事にのみ務め乳質の如何を問はざる傾向なれば藤富國商店にても搾乳家へ對し充分の注意を與へて乳質の改良を期する由なるが警務部に於ては此際嚴重に取締る方針なりと云ふ

●三島理事の靜養　朝鮮銀行の三島理事は病氣にて久しく總督府醫院に入院中の處三十日全癒退院せしが氏は豐後別府溫泉に病後を靜養すべしと

●本田博士蠶業視察　蠶業視察のため目下滯京中なる本田岩次郎氏は卅日纛島模範場、東籍田桑園、廣州授產場、南蠶室竝桑園等を觀察したるが卅一日は龍山及京城作蠶製糸の狀況を調査仁川に赴き九月一日出發北行すべしと云ふ

●田中教授南鮮視察　慶應義塾大學史學科の主任教授たる田中萃一郎氏は東洋史續調査のため近日滿州を經て入京中なりしが卅一日出發大邱、慶州、蔚山等を經て歸東なすべしと云ふ

●原技師の出張　總督府技師原島善之助氏は今回公用を帶び咸鏡南北道へ出張を命ぜられたり

●巡査補採用試驗　警務總監部にては卅一日午前九時より警官練習所に於て巡査補採用試驗を行ひたり今回は約三十名採用する豫定なるが志願者は二百五十餘名ありと云ふ

●咸南の農作狀況　咸鏡南道洪原郡下元川面は山岳を以て圍繞せる高地にして寒暖の差甚だしき所なるが本年は六月中旬より降雨多く今尙快晴に至らず氣溫冷却せる爲め農作物の發育不良にて粟麥の如きは甚しき被害を受け其他の作物も成育不良なれば農民一同憂慮し居れりと

●永興養蠶傳習所況　咸鏡南道の同傳習所にては本年五月一日講習を開始し既に第一回の講習を終へ八月一日第二回の講習を開始せるが生徒は熱心に研究し一般人民に於ても養蠶思想を高上し近來參觀する者頗る多く結果良好なりと

●校舍新築契約未定　卅日午後一時より民團役所に於て鐵路以外二ヶ所の小學校々舍新築の請負入札を行ひたるが何れも豫定價額を超過して未だ契約するに至らずと云ふ

●果樹の芽接實習　朝鮮農會開城支會にては果樹栽培事業の改良發達を圖る爲め今秋芽接法實習生二十名を募集して技術を授くとの計畫なるが此の芽接法は普通接木法の如く手數と熟練を要せず接着容易にして若し活着せざる場合に於ても砧木を損せず再三砧木とし使用し得るを以て砧木の少なき朝鮮に於ては最も緊要の事なりと

●敍任辭令
休職朝鮮總督府技師　藤宮惟一
復職を命じ度支部稅關工事課勤務
同總督府營林廠事務官　淨永孟四郎
營林廠會計課長を命ず
同總督府營林廠事務官　今川唯市
營林廠會計課長事務取扱を免ず

公人私人

▲前原儀太郎（鎮南浦）卅日入京天眞樓へ
▲秋田毅一（仁川電氣會社長）同
▲秋本豐次郎（鎮南浦）同京城ホテル
▲田中萃一郎（慶應大學敎授）同出發

▲京城手形交換高▼

八月三十一日　金高　三三八、三七五、六六〇　枚數　五八　圓

▲治外法權▼

此兩三日は寄ると觸はると新內閣談で持切り、ホムるもあればケナすもあり、十人十色、中に賑はしい事だ▲只た吾れも人も一樣に心配するのは今度の內閣が幾年持つかだ、或は曰ふ一ケ年、或は曰ふ二ヶ年、而して一ヶ年とは一議會の意味で二ヶ年とは二議會の意味だ、ソウして議會以外には何等の理由もないのだ▲之を聞く現英自由黨內閣が出來た許りの時には人皆アスキスが二ケ年以上を保たざるべきを云つた、事や意外さすがのチャンバアレンやバルフォも呆さるる許り、成立以來已に四箇年を經過た▲されば西園寺內閣とてソウゾウ短命視すべき理由はない、否な短命どころか若しも幸にして新聞継續中、干涉好きの元老なるものの凋落するあらば、二箇年はオロカ、五箇年八ケ年否な十ヶ年も維持さるゝであらう、ソコデ思ふ新閣の壽命は元老の凋落如何に因て決す▲最近其筋の調査に因れば內地人漁業者の半島移住現在戸數は僅か六百二戸で、之に對する人口は三千百八十餘名に過ぎぬ、一時評判ありし東拓の漁村建設の如き今は全く夢消▲來十月東京にて開く全國商業會議所聯合會へ我半島からはドンナ問題を出すか、米穀出稅の撤廢、會社令の改正、此二問題決して落す能はず▲記者昨朝佐野源を試み、本町二丁目に到る、俄然馬と余と街上に跪く、其ブザイき轉た行人の失笑に値す。

多情多恨

京城藝妓の半生
元京城券菊家の小鈴事
清華亭 小鈴（一）

龍山桃山の桃雲閣に絶大なる精力を發揮して遂に其手腕の凡ならざるを認められ嬌名を轟かし却つて菊家式に違反したる爲め遂に清華亭に仕替わて愈々其の本色を發揮せんとしつゝあるは元京城券菊家の小鈴だ、要するに適材を適所に置いたものと云ふべしだ、ナ、精力主義の權化小鈴拍子、彼れは廣島市猿入町熊田平太郎なる人の長女と生れた本名はきみ子と云ふ當年二十三で最初から藝妓として育てられたのだ十二にして豊前小倉の柳原券から雛子に出され無事に三年を過した十五の秋小倉北方の歩兵第四十八聯隊附の木下歩兵中尉の寵を蒙つた後は互に上り詰めて浮名を唄はれた十七歳の十月遂々落籍されて一戸を構えて貰つた、中尉位でありながら藝妓を圍ふて置く程の實力がよく有つたものだとの不審は起るが勿疑だ木下中尉は實に豊後國は日出の城主木下子爵家の令息であつたのだ、此の事間もなく子爵家にも知れ聯隊の方にも知れて問題に成つた結果は何程かの手切金で放逐されたのが十八の年の三月末、蜜より甘き歡樂の戀は果敢なき浮世の義理と云ふ野暮なものに破られて終つた、男女の訣れの如何に悲痛であつたらう中尉は極めて秘密に手當を當へ呉々も堅氣になるべく言ひ聞かして小鈴を廣島に送り返したが父の平太郎は元來娘を喰物にする量見で育てた程のものだ娘が血と涙とで得た手切金も取り上げた上で今度は廣島の廣中券に賣り飛ばして酒と賭博に耽るのであつた、然るに一方小鈴は餘りの淺間しさに前後の事情を委し涙ながらに認めて片付忘れられぬ懐しい〳〵木下さんに申送つた所木下君は大に同情して親元身受けを仕て遣つて約一ヶ月程滯在中親父の平太郎の不心得を懇々說論して歸つた、と鬼の如な父平太郎は跡見送つてベロリ吐いた其舌で周旋屋に周旋方を頼んで其の月の十二月筑前は博多の水茶屋券に三度小鈴を賣り飛ばして好きな酒に舌鼓を打つたのだ（つゞく）

●仁川濱町の大火

三十日午後十一時三十分仁川濱町二丁目十二番地の六理髪職平野寅吉方より失火せしを折から巡回中の高田巡査が發見しスハ一大事と急を常備消防隊に報したゞちに附近の者を督して消防に盡力せしも偶々東風吹き來り見る〳〵内に附近の高津與吉、石川駒太郎、角石八夕、三宅淺二郎、高田岩吉、楢崎伊勢吉、樋口勘右衛門、山崎卯之吉、中本雄太郎、宮田鉄太郎、川原藤二郎、小川常夫、伊佐山とみ、近藤林之助、中重久槌、濱崎清二郎、藤中善吉、池田益藏、大月笹平、中村與八郎、曾谷松次、石塚與之助、等の七棟二十六戸を燒盡し片山寅藏、總谷寅吉二戸を半燒し更に火焔濛々として天を焦し三井物産會社より京城本町五丁目山本村太郎に賣却したりと云ふ、板材の滿積しある倉庫を嘗め盡し朝鮮新聞社、沖津戸十郎、桑野良太郎、秋田商會の合宿所等は刻一刻と危險に陷りたれば消防隊其他一同は必死となり消防に盡力し幸に無事なるを得一日午前一時三十分鎮火せしめたり

▲失火の原因　平野虎吉は同夜附近の藤川方にて圍碁をなし居たるに同内縁の妻堀内つね（二十七）は長男雅雄（二）を抱き午後十時頃寢に就きたるに又々天井下一尺位の距離に八分心の洋燈を點火のまゝ吊し置きたれば該洋燈の油壺ゝ入火し忽ち天井に燃え移りスハと云ふ間もあらせず二階に燃へ拔けたれば同二階に就寢せし高津ひせ、角石はつ、森原杢次の三名は命辛々二階より裸体にて飛下りたり

▲消防隊の活動　常備消防隊にては眞先きに仁川鐵工所向側の消火栓を拔き水を送り暫く間に沖津の前の御屋前、ヒヤツプ前、宮町二丁目等の消火栓を拔き警察署員總出にて大活動を演じたる結果鎮火せしめたるは眞に水道の賜なり

▲損害高　現に取調中なるより詳細に之を知るを得ざるも我社の調査せし處に依ると山本村太郎の板材賣掛四千五百圓日下部商店の倉庫一棟但し積載しありし陶器類大部分破壞したれば約二千圓損害其他通算する時は一萬六千四百三十圓餘の損害となるべし

●即決處分の無罪

別項記載の床梅事會根田梅吉（四十）に對する浮浪罪として拘留處分即決に對する正式裁判は三十一日午前九時より京城區裁判所刑事部法廷に於て宮脇判事の係り秋山檢事立會の下に公判開廷せられ被告辯護人として岡田岩本兩辯護士出廷せり事實の審問終りて證據調に移り岩本辯護人より證人として被告が正業に從事しつゝありし事を立證する爲め京城浪花館主人及龍山桃山の紀の國屋主人を證人として喚問岡田辯護士より被告は門司に居所を有するとて同市警察に照會の申請ありたるも不必要として却下せられたり檢事は有罪の論告を爲し辯護人は即決例を非難し行政處分は犯罪を未前に防ぐの政策なるに現今の行政處分の不當なる事及刑事政策の百害あつて一利なき事を陳べ一步進めば政治的議論に渉らんと迄頗る痛快なる辯論を爲し終つて直ちに判事は無罪の宣告ありたり

●博徒親分の退鮮

和歌山縣和歌山市新町北の新地生れ會根田梅吉（四十）は數年前渡鮮し博徒の親分として賭博を常習とし或は子分を集め暴行を働く事屢々なるより四十三年三月南部警察署より論旨退韓を命ぜられ清國に渡り同地にても偽害罪を犯し或は賭博を開張するより退消命令を受け又々當地に來り別項記載の如く浮浪罪として本月十八日南部署にて拘留二十日に即決言渡を受け正式裁判を仰ぎ無罪の宣告を受けしが三十日付三ヶ年間退鮮を命ぜられ三十一日午後一時南部警察署長の手にて命令書の交付を受けたり因に彼れ梅吉は區裁判所法廷に於て判決宣告以前岡田岩本兩辯護士辯論終りて兩辯護人より判檢事の許可を得て退鮮命令に服從し謹愼の体度を取り正業に從事す可く勸告受けし事とて期間内に歸國正業に從事す可しと

●俳優の珠數繫ぎ

本籍大阪市南區坂町三十六番地阪本定之介（四十八）大阪市東區上本町九丁目百四番地井上二郎（二十八）福岡縣田川郡神田村字西會田八百三十八番地池田榮次郎（二十三）熊本縣熊本市上職人町五十五番地松島まつ（五十）は目下興行中なる龍山山下町一丁目櫻座の何れも浪花節俳優なるが三十日午前二時前記四名の者一座となりて芝居ならぬ賭博の開張中龍山憲兵分隊の探知する所となり取押られ召喚の上即決言渡し各科料金三圓に處せられ引取りしとは馬脚が馬脚を現はしたりとも云ふべきか

●新町遊廓各妓讀込都々逸
市松

○月月樓　玉章○○
主へ玉章實意を込めて
又の御げんの叶ふ樣
評『その優しい心情が屆けばキツト來ますよ

○皆春樓　花子○○
餘所に増す花このごろ出來て
影も見せない憎い主
評『口惜しいでしよ、死んだらと殺してやりなさい

○大桝屋　若竹○○
思ひ一と筋身は若竹の
心の操は曲げぬ節
評『浮いた稼業はしていてもかそ其心根を聞けばあの方もサゾ悦ばしい事であらふ

○日曜樓　朝霧○○
憎や朝霧見送る門に
主の姿が消へて行く
評『見返りもせずモウ行つて仕舞ちやつたわ……憎らしい今朝に限つてこのマア霧の深い事

●同宿者を襲ふ　愛媛縣人當時仁川仲町二丁目茶谷嘉壽郎（二十八）は京城御成町高知屋旅館止宿中同宿人堀部九十郎所有米澤羽織を窃取し南部署刑事に捕れ檢事局に送らる

●取消　八月二十九日發行の本紙に自轉車泥棒と題し加藤守夫なる人が光化門郵便局にて自轉車を窃取せしが如く報道したるが右は其筋にて取調べの結果全然事實無根に付取消す

●一萬二千餘圓の行衛　ライオン齒磨の本舗なる東京神田柳原小林富次郎氏の發行に係る同ライオン齒磨の袋に刷込みある慈善券は昨年中約二萬二千圓の價格に相當するものを發行せしも其内引換へしものは僅かに九千二百餘圓にして差引一萬二千七百五十餘圓は未だ引換を了せざるにつき其引換期限を本年八月十五日迄に延期したるが尚ほ夫れにても引換へを終らざる時は適宜の方法にて夫れ〳〵慈善事業に寄附する筈なれば右寄附方法につき心當りの名案あらば何人にても同本舗へ宛て注意せられたしとなり

●正誤　左の通り申込ありたるに付正誤す
明治四十四年八月卅一日發行京城新報第七百六十三號五頁危險制止の危險と題する記事は彼等の墜落せし急報に接し巡査驅け付け應急保護を加へたるものにて該記事は事實相違せるを以て正誤有之度此段申入候也
明治四十四年八月卅一日　北部警察署印
京城新報社御中

郎のうはさ

▲井門と松葉は當地大料理店中一番に氣安く肩の凝らぬ樓とか▲御座敷と▲申す人の曰く第一仲居連が客扱ひに馴れ女將又極めて愛想者にて藝妓もツンと致さず料理も上等なりと評判半分としても成程結構なるべし▲花月の勝利曰く世の中に三面記者程氣障なものはない併し情人に持つのでなければ別段氣にする事もないワと、流石は渠なり扱も巧い言を吐したるもの哉左樣思つて居れば別狀なかるべし▲翡翠は彼の事以來大に藝妓の待遇方を改良致し漸定も可成愛想にしと心掛ける樣になつたりとは芽出度し▲仁川のお噂を申上候▲鶴樓の箕子は布袋の如き腹を抱へて稼業でもあるめいと秋田の黒旦那と相談の上廣島市大手町五丁目の自宅に立ち戻り候由▲同樓の雛妓雛子（十三）も一兩日前廢業し門司に居る實父磯吉の許に歸りたるが扱其の次は何子と呼ばれて何うかなるのだらう▲一富士の一君は京城巴城館へ酒落の雛名を呼び附けにされて……エヘツ樂しんで居るとよ▲淺岡の勝利は病氣休業中なりしか二十九日附花町三丁目の井上常三郎方にて養生したき旨願出で候由時候柄折角御自愛專一に候モシモの事のない樣にと陰ながら祈つてる人がいると云ふがソリヤ左樣でしようともね女だもの（郎雀）

●演藝だより

▲浪花館　浪界の鬼才桃中軒雲柳一行は初日開演以來絶えず大入を得つゝあるが九月一日の讀物は左の如し　堀部安兵衛（柳若）田宮左金吾（燕太郎）左甚五郎の傳（千里庵八千代）京警視廳混亂青年立志、伊藤公ハルピンの夢、花園襲大石妻子別、大石江戸下り、桃中軒雲柳）雲柳當夜の讀物は最も彼れが得意とする所なりと云ふ

▲歌舞伎座　三十日より第二回替り目準備の爲め休演來る二日より新寫眞到着を開演する都合なるが特に今回は總て長尺物のみにて一夜通じて僅か六本を映寫するのみなりと地球中心の探險（着色九七八呎）滑稽手紙（一五二〇呎）西洋悲劇青春の血（二一〇九呎）滑稽ハピラパと豹（八七八呎）中野信近一座悲劇松の操奏八の生埋（二〇七二呎）聲色入新派電氣踊及キネオラマ等にて三等十八錢二等三十八錢一等五十八錢特等七十八錢の四種なりと云ふ

▲壽座　片岡鶴之助一行二日目の代狂言は觀音丹次の續きにて大切迄

●天勝の仁川乘込　當地壽座に於て大好評を受けし松旭齋天勝一行は廿九日を以て壽座を打ち揚げ三十日昌德宮にて李王殿下の御上覽を賜はり三十一日は龍山鐵道倶樂部の招演に應じ一日愈々仁川歌舞伎座に乘り込み愛二日より花々敷開演の筈にて例に依り驚天動地、世界的大魔術を行ふ由

平民文庫

▲仁川濱町の海岸通り路上に小船を繫留す爲め纜を結び付ける杭が幾本も有るので夜の散步に躓て轉ぶ者が澤山ある道路取締上其筋の注意を乞ふ（潮風生）▲弁護士、京城新報に取消文を出した宮町公園下の小松はるは可愛い男が懲役に行たので遇ふ人毎に私の婿さんはツマラなかつたと愚痴つて居る程なのに夫れでも取消を出すとは烏滸がましい（水原の主人）▲もし〳〵當今の帝大出身の者はあのやうに學識のないものですか堂々たる二本筋の人々一人話しになるものはない學問と來ては皆無あれでは學士も一山五厘位ひのものに候（實見生）▲僕は先日教會に耶蘇教を聞きに行つたが人生には慰安がなければ生存して居られぬと云はれた僕等には目的も慰安もない故に苦しみも樂しみもないけれども生きて居るのは不思議ではないか莊周孔子を許して至人は未たし名聞と云ふ桎梏の爲に天より刑せられたるも同然と云はれた實に至言と云ふ可きである耶蘇教なんかは物欲のある人間を一層深き罪に入れるものである（空人）▲蓬萊町一丁目の小城原といふ娘と或新聞社の者と情を通じて居るが親は氣をつけないと跡で困りますよ（心配生）▲仁川京町二丁目遊屋神田總樋の長女みわ（十九）と云ふは生れつきの小柄にて未だ肩上も取れず誰が見ても十三四歳位にしか見られぬも矢張女は女年は何時しか賣家の冥子製造業松園某の二男某と通じ因果の嵐は滑りなく膨脹、數ヶ月前產の紐を解かれんとすれども籤の塊に熱る大らいので產婆の手に餘り仁川市中の醫士總立會と云ふ大騒ぎをなしヤツとの事で玉の樣な男の子を產み落した（仁川小僧）▲ヤレ〳〵先は芽出度し（京城小僧）

廣告